

とんじん 種まき



4月28日、人参の種まきをしました。毎日、天気予報を見ながら最適な日を模索します。土壌水分も適度でなければなりません。そして、播種後一日は土の表面を乾燥させなければなりません。土の表面が乾燥状態ではない場合、その後に雨が降ると土壌の表面がコンクリート状になり固くなってしまい小さな人参の種が土の表面に芽を出すこ

とはできません。播種するタイミングは大変難しいです。人参は愛美という品種で芯まで赤く、肉質がきめ細かく、数か月貯蔵しても他の品種よりも保存状態が良好です。試験栽培としてタキイ種苗のTCH-791 という金時ニンジンと西洋ニンジンとの中間型赤ニンジンも播種しました。まだ、番号のみですので品種名は決まっていらないようです。①

水と石のベベルイ川

幾度か紹介しています農園前を流れるベベルイ川には、写真のような段差のあるところがあり、きれいな水が勢いよく流れています。小さなお子さんは親と同伴でなければ危ないでしょうが小学校中学年

以上であれば楽しく遊ぶことができます。このすぐ下流は、緩やかな浅い川に変わります。魚釣りも楽しめる穴場でもあります。ちなみにベベルイとはアイヌ語で水や石が基だしという意味です。①



ペレットストーブ

4月5日から住宅のリフォームを始めました。40年近く住んでいる住宅の床板がかなり傷んでしまい思い切って簡単なリフォームしました。また、当初薪ストーブを考えていましたが場所的に無理でしたので、ペレットストーブにしました。やさしい暖かさで熱交換率も高く、このストーブで



20畳くらいは暖めることができます。ペレットはカラマツやトドマツなどの針葉樹を圧縮してペレット状にしたものですので、薪と同じ自然な原料です。①

編集後記

農園に隣接する旧東中中学校の桜が5割ほど開花した翌日(4月30日)雪が降りました。ワインを買い求めに来られた本州のお客様が桜の花と雪の奇妙な取り合わせに驚いていました。この時期の雪は決して珍しいことではありませんが、前日の暖かさから一転しての極端な天気にはやはり驚きます。最近、気になるのがいつも見ている十勝岳の噴煙です。つい先日噴煙の多さに火山活動に大きな変化があったのではと思いました。十勝岳は安政4年(1857年)以来、30数年周期で噴火を繰り返しています。とくに大正15年(1926年)5月24日の噴火は、大規模な水蒸気噴火で山頂付近の残雪を融かして大きな火山泥流が発生して、泥流は上富良野市街まで到達してこの噴火で死者行方不明者144名にも上りました。この

出来事は作家 三浦綾子さんの「泥流地帯」にも書かれており、上富良野町ではこの「泥流地帯」の映画化を進めています。昭和37年(1962年)にも噴火があり、私の祖母が早朝4時頃、大噴煙を上げている十勝岳を見て「大変だ、大変だ」と叫びながら畑から戻ってきたのを思い出します。昭和63年(1988年)12月の暮れの噴火は、私は消防団員でしたので消防本部に一晚待機したのを思い出します。十勝火山群の形成過程を調べると約50万年前から、まず農園が一番近く一番大きく見える前富良野岳、富良野岳が現れ、次いで美瑛岳、オプタテシケ山、上ホロカメトック山など、のちに十勝岳が生じたとあります。すべてが活火山ですが、現在は十勝岳だけが噴火を繰り返しています。①

多田農園 通 信

Tada farm
tsushin
2021.05



厳しい寒さに耐えられず
冬を越せない樹が毎年
一定の割合で発生します



有限会社 多田農園

〒071-0529 北海道空知郡上富良野町東9線北18号
Tel 0167-45-5935 Fax 0167-45-6012
info@ninjin-koubou.com <http://ninjin-koubou.com/>



ぶどうは
はじまる

ぶどうの枝上げ

4月1日からぶどうの枝上げを始めました(写真▲)。今年は3月中旬までの積雪が例年になく多く、畑作業が遅れるのではないかと心配していましたが、それ以降、気温が高い日が多くなり3月末には畑の雪は消えてなくなりました。さっそく、冬の間ぶどうの樹を寒さから守るために伏せてあった枝のピンを取り除いて麻ひもで一本一本、一番下の針金に枝を縛って固定していきました。この作業は4月20日頃まで続きます。今年のぶどう作りが始まりました。①



杭の埋め直し

ぶどう畑の杭の埋め直しを行いました(写真左▼)。農園の畑は、扇状地にあり太古の昔、洪水など水が流れた層がいくつかあります。石が多くぶどうの杭を上からたたいただけでは深く土の中に入ることはできません。昨年までコンボ(小さな重機)がなかったため、杭の浅い所は、強風などで倒れることが多くありました。そこで、今年は、浅い杭の埋め直しを行いました。①

苗木植え

4月27日、ぶどうの苗木植えを行いました。前日まで不順な天候が続いていましたが、15℃位の晴れた日の作業日でした。山形県の苗木屋さんで接ぎ木をして1年間育ててもらった苗木の根と枝の剪定を行い、一昼夜、根を水に漬けて植えました。今年はシャルドネ



200本、ピノ・ノワール200本、カベルネ・ソーヴィニオン100本、シラー50本を7人で予定どおり植え終わりました(写真▶)。土壌水もあり、その後の天気予報も雨の日が多く、移植のタイミングとしてはいい条件だと思います。あとは、発芽してくれることを願っています。①



ぶどうの補植

4月28日~29日ぶどうの補植作業を行いました。小さなコンボを使って昨年、発芽しなかった樹を

抜き取り、新しい苗木を植えました。スコップで作業をするには、草の根が強くて労力がかかりますが、さすが機械力で難なく掘り取って行きます。冬の厳しい寒さに耐えられず、冬を越せない樹が毎年、一定の割合で発生します。①

りんごの高接ぎ

4月2日、りんごの木の高接ぎの指導を富良野農業改良普及センターの小島さんから受けました。高接ぎとは、生育途中の木に違う品種の枝を接ぐことです。今回は、主にりんごのふじの木にシナノゴールドとグラニースミスを接ぎました。ふじは改植3年目ですが、シードルやジュースには酸がある品種が向いていることが分かり、ふじの木を台木にしてグラニースミスなど

の枝を穂木に約40本を接ぎ木しました。台木の切り口の皮に近い部分にある緑色の形成層と呼ばれる部分が穂木となる枝の切り口の同じ形成層が合わさっていれば葉が出るそうです。穂木の葉芽と呼ばれるところから出ますが、専用のテープでしっかり固定して、切り口には病気が入らないように殺菌剤を塗布して、保温と乾燥を防ぐためにビニール袋かけました。①



今季もオープン

プチペンション田舎倶楽部

今年の宿泊(プチペンション田舎倶楽部)の営業を4月28日から始めま



す。昨年のゴールデンウィークはコロナ下で休業しましたが、今年は細心の注意を払いながら営業します。オープンに先立ち3室あるスタンダード部屋の玄関ホールにコンクリートを打ち、その上にテラコッタ調のクッションフロアを敷きました。これで部屋からシャワールームやトイレに外履きに替えずに行けるようになりました。宿泊施設は、毎年何らかのリフォームをしています。①

朝食のおやき

4月28日、宿泊の朝食のおやきづくりをしました。館は農園で収穫されたじゃがいも(キタアカリ)と枝豆です。例年自動包餡機を使って製造しますが、今年は手作りで行いました。手作りだと、包餡機より色々な食材を使用することができ楽しいおやきになります。量産はできませんが、お客さんの予約状況を見ながら農園の旬の食材を使用できればと思っています。昨年秋に収穫したりんごもいい状態で保存できているので、りんごのプレザーブ(刻んだりんごだけで作る加工品)を入れたおやきもいいと思っています。①

カフェの準備

4月26日、宿泊の朝食会場ファームカフェのオープンに向けて準備をしました。冬期は休業していますので、半年ぶりに使用することになります。農園スタッフ二人にレイアウト

